

★最新介護医療情報★

変異株にワクチン効果 接種の9割で抗体確認

(共同通信社 2021.5.12 配信)

横浜市立大の研究チームは12日、米製薬大手ファイザーの新型コロナウイルスワクチンを接種した人の9割が、日本で見つかっている複数の変異株に対する抗体を持っていたとの研究結果を発表した。ワクチンの効果が期待できるとしている。

国内で最も多く見つかっている英国株や南アフリカ株のほか、最近問題になっているインド株など7種の変異株について調べた。

チームはワクチンを接種し、これまでに新型コロナに感染していない105人を対象に、ウイルスの増殖を妨げて再感染を防ぐ抗体ができていないかどうかを調査。

まず2回接種した人の血液を調べたところ、99%の人に抗体ができていないことを確認した。

英国株と南アフリカ株、ブラジル株について調べると、90~94%の人が抗体を持っていることが分かった。またインド株に対しても97%の人に抗体ができていた。

ファイザー製95%感染予防 イスラエルのワクチン接種

(共同通信社 2021.5.6 配信)

米製薬大手ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンを導入したイスラエルで1月から4月の感染状況を分析した結果、2回接種から7日を経ると95.3%の感染予防効果が見られたと、同社やイスラエル保健省などのチームが英医学誌ランセットに5日発表した。

実用化前の臨床試験で発症率を大幅に低下させる効果が報告されていたが、実際の接種でも高い有効性が示された。1回接種だけでは効果が劣ることも分かり、チームは「2回接種が重要だ」と呼び掛けている。

発表によると、イスラエルでは4月3日時点で、接種対象の16歳以上のうち72%(約471万人)、65歳以上では90%(約102万人)がそれぞれ2回接種を完了した。

接種した人たちの状況を未接種の人たちと比較した結果、2回接種から7日後以降の感染予防効果は95.3%、重症での入院は97.5%、死亡を96.7%防ぐ効果が見られた。85歳以上に限っても感染を94.1%防ぐなど有効性は高く、16~44歳では、死亡を100%防いだ。

一方、1回接種では感染予防効果は57.7%、死亡を防ぐのも77.0%にとどまった。

評価した1月末から4月初旬までの間で、イスラエルでは約23万人の新型コロナ感染を確認し、94.5%は英国で見つかった変異株だった。

チームは、ワクチンの効果の持続期間が不明なことや、新たな変異株が出現する恐れがあり、流行の制御に課題があることを指摘した。

